

表3-2 ドイツ占領によるバルト三国・ソ連の犠牲者と物的損害

共和国	a. 犠牲者	b. 人口 <sup>1)</sup> (100万人)	a/b (%)	物的損害 (億ルーブル)
ロシア	1,793,000	110.1	1.63	2,490
ウクライナ	4,497,000	41.3	10.89	2,850
白ロシア	2,198,000	9.1	24.15	750
ラトヴィア	644,000	1.9	33.89	200
リトアニア	666,000	2.9	22.97	170
エストニア	125,000	1.1	11.36	160

注：1) 1940年現在。

出所：Europa unterm Hakenkreuz (Sowjetunion), S. 96.

「命令」のために、バルチザン活動地域のすべての家畜、および食糧品在庫を徴発して「安全地域」へ運び去ってしまった。さらに、なんらかの労働配置が可能なすべての男女労働力を強制的に掌握し、後方安全地域カライヒで投入することを決めた。このような措置で農業生産などが低下したり停止しても、なんら顧慮することはない。これまで「ギヤング団に汚染された地域」はなんら貢献を示さなかったただけではなく、直接的・間接的に「ギヤング団」に役立つただけだからである、というのがその根拠であった。

いま事例的に一九四二年秋の事情を示したが、全体を通していえばこの地域は、独ソ戦初期にはドイツ軍がソ連軍を掃討しつつ進撃していった通路、独ソ戦最終段階には、焦土作戦をつづけて撤退するドイツ軍を追撃するソ連軍の通路となった地域であった。巨大な独ソの軍隊が前進と後退のなかでぶつかり合う地域でこそ、民衆のなかに占める犠牲者の数が大きかったことは、表3-2をみれば明らかである。それはとくに人口中の犠牲者の割合が示しているとおりでであろう。

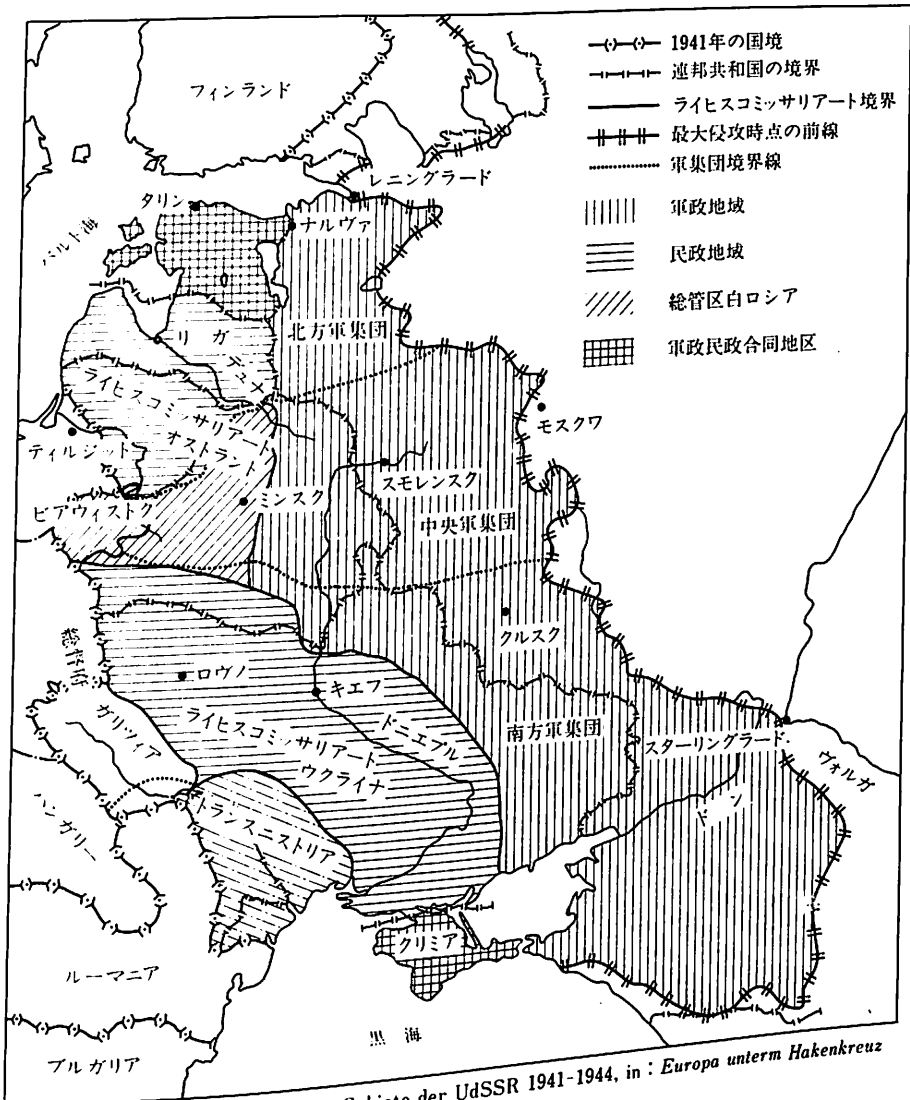
歴然たる敗退の段階に仮借なくなることは必然であった。たとえば、ヒトラーの指令に従ってライヒ元帥・四カ年計画全権ゲーリングが発した命令（一九四三年九月三日）によれば、撤退の段階ごとに（といってもそのような直接的表現は使わないが）、最高軍事指導部によって決められた線の「東側地域」において、そのときどきの軍事情勢に応じて漸次的になされるべき措置とされたのは、つぎのことであった。すなわち、第一にすべての農産物、農作業の道具や機械類を農業・食糧経営から運び去ることで、第二に、食糧の製造・加工経営の破壊であつ

# ドイツ第三帝国の ソ連占領政策と民衆 1941—1942

永岑三千輝 著



図0-1 第三帝国のソ連占領地域



出所：Die zeitweilig okkupierten Gebiete der UdSSR 1941-1944, in: *Europa unterm Hakenkreuz* (Sowjetunion), S. 613.

